



ユティラヌス・フアリ

全長約9mの原始的なティラノサウルス上科の恐竜。全身が羽毛で覆われており、前肢の指は3本ある。発見当時の「大型のティラノサウルス上科の恐竜は羽毛をもたないだろう」という予想を覆す重要な発見となった。

累計来館者数
100万人突破！

7月14日から9月24日にかけて、恐竜博物館で特別展「ティラノサウルス 進化の謎に迫る」が開催されています。史上最大級の肉食恐竜ティラノサウルスはどこからきたのか？ 最古のティラノサウルス類「グアンロン」や羽毛を持つティラノサウルス類「ティロン」「ユティラヌス」の復元模型。さらには、九州初公開の「ライスロナックス」(T・REXの祖先ともいわれる)の全身骨格など、見どころ満載の内容になっています。特別展を見に来た龍陽光くん(久留米市・小3)は「ティラノサウルスの頭の化石の大きさにびっくりしました。また見に来たいです」と笑顔で話しました。



世界の
ティラノサウルス類
この夏
集結



グアンロン・ウカイ

全長約3mの肉食恐竜。鼻の上にとさかがあり、全身は原始的な羽毛に覆われていたとみられる。化石は中国、新疆の五彩湾地域に分布するジュラ紀新世の地層から見つかる。



ライスロナックス・アルゲステス
九州初公開！流血の王「ライスロナックス」。全長8m。大型化した北アメリカティラノサウルス科の恐竜としては最古の化石。

わくわくすること
間違いなし！
探そう！進化の秘密—



快挙！ピアノコンクール 全国大会で 金賞受賞！

6月23、24日、東京の浜離宮朝日ホールで行われた第10回グレンツェンピアノコンクール全国大会の大学・一般コースで吉田志央里さん(滝川)が見事金賞を受賞しました。グレンツェンピアノコンクールは、グレンツェンピアノ研究会が主催する国内最大級のコンクール。大きなステージでピアノを奏でるだけでなく、他の参加者の演奏にも耳を傾けることで自分自身の可能性を広げることができるのが、このコンクールの醍醐味。

ピアノ、夢との出会い
6歳から大好きなピアノを始めた。ピアノを弾くことが好きで、遊び感覚ですつと弾いていた。小学生のときには、祖母にグランドピアノを買ってもらい、毎日のようにピアノを弾いていた。その頃から、「音楽の道」に進むことを決意した。小、中学校では、金管バンド部、吹奏楽部に所属し、御船高校では芸術コースを専攻。卒業後、平成音楽

迫ります。



Yoshida Shiori
吉田 志央里 (滝川)

6歳からピアノを始め、御船高校芸術コースを卒業。平成音楽大学音楽学部音楽学科ピアノコースを卒業。同大学専攻科修了。平成音楽大学修了演奏会に出演。在学中、平成音楽大学客員教授フィリップ・ジュジアーノ氏の学内公開レッスンを受講。現在、熊本を中心にさまざまな演奏会等で伴奏ピアニストを務める。御船童謡教室ほほえみ専属ピアニストとしても活躍中。

大学音楽学部音楽学科ピアノコースを専攻。ピアノの先生たちに出会い、音楽の基礎から技術的なこと、音楽の素晴らしさを教わった。
全国の舞台で
全国大会へ進むには、県内で行われる予選、本選を進み、地区大会(九州大会)で金賞、銀賞、銅賞に入らなければ突破できない。地区大会を勝ち進み、全国への切符を手にした吉田さんは、「うれしかったが、全国ではもっともっと頑張らなくては」という心境だった。
全国大会の課題曲は「メヌエット」。曲自体は、短い曲だが、一回限りの演奏で、失敗できない。審査は、曲の内容を理解し、細かい解釈が必要になり、楽譜から読み取り、表現力が求められる。結果はすぐに発表された。順位は下から順に呼ばれる。最後に金賞の受賞者を発表されたとき、今までやってきたことが思い出され、胸から熱いものが込みあげてきた。「いつも支えてくれる家族や先生、周りの人たちのおかげ」と言葉がこぼれる。吉田さんの悲願が達成された瞬間だった。



▲全国大会金賞の
トロフィーと賞状

現在、伴奏ピアニストとしてさまざまな演奏会で活躍している。伴奏は、歌い手と弾き手の呼吸が合わないといけないもの。聴いている人に、心を込めた音を届け、美しく演奏する思いは変わらない。
「ピアノはなくてはならないもの」とピアノへの思いを語る吉田さんは、これからもさらなる高みを目指す。

ピアノと共に—



▲伴奏ピアニストとしても活躍する吉田さん
(御船童謡教室ほほえみのレッスン風景)